

令和7年2月26日

第36回医道審議会保健師助産師看護師分科会  
看護師特定行為・研修部会

資料2

# 特定行為研修修了者の 育成及び活用の実際

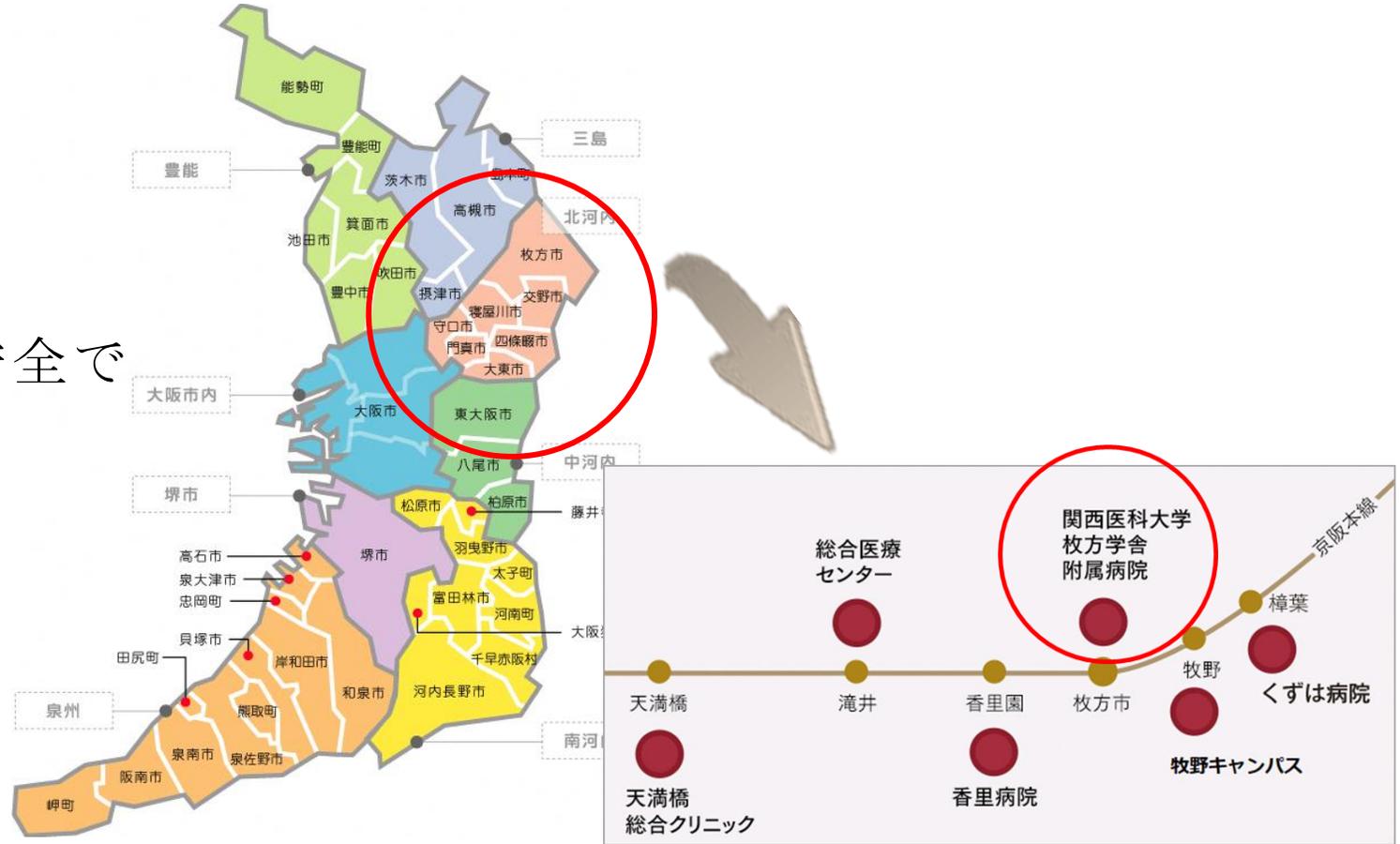
関西医科大学附属病院  
看護副部長 稲井 久美子





# 病院理念

慈仁（めぐみ）を心の鏡とした安全であたたかい医療を提供します





## 施設概要

2023年度実績

特定機能病院	45診療科
病床数	797床
病床稼働率	99.8%
平均在院日数	10.3日
平均外来患者数	2,172人
手術件数	12,514件
救急搬送件数	3,309件

## 看護職員概要

2024年4月現在

看護師数	980人
認定／専門看護師数	26人／9人
うち、認定特定看護師は、13名	

**特定看護師数 106人**

看護職の**10人に1人**が**特定看護師**



# 組織の育成・活用ビジョン

法人

特定看護師の活躍

病院

医師の働き方改革の推進

看護部

看護師の役割拡大・資質の向上

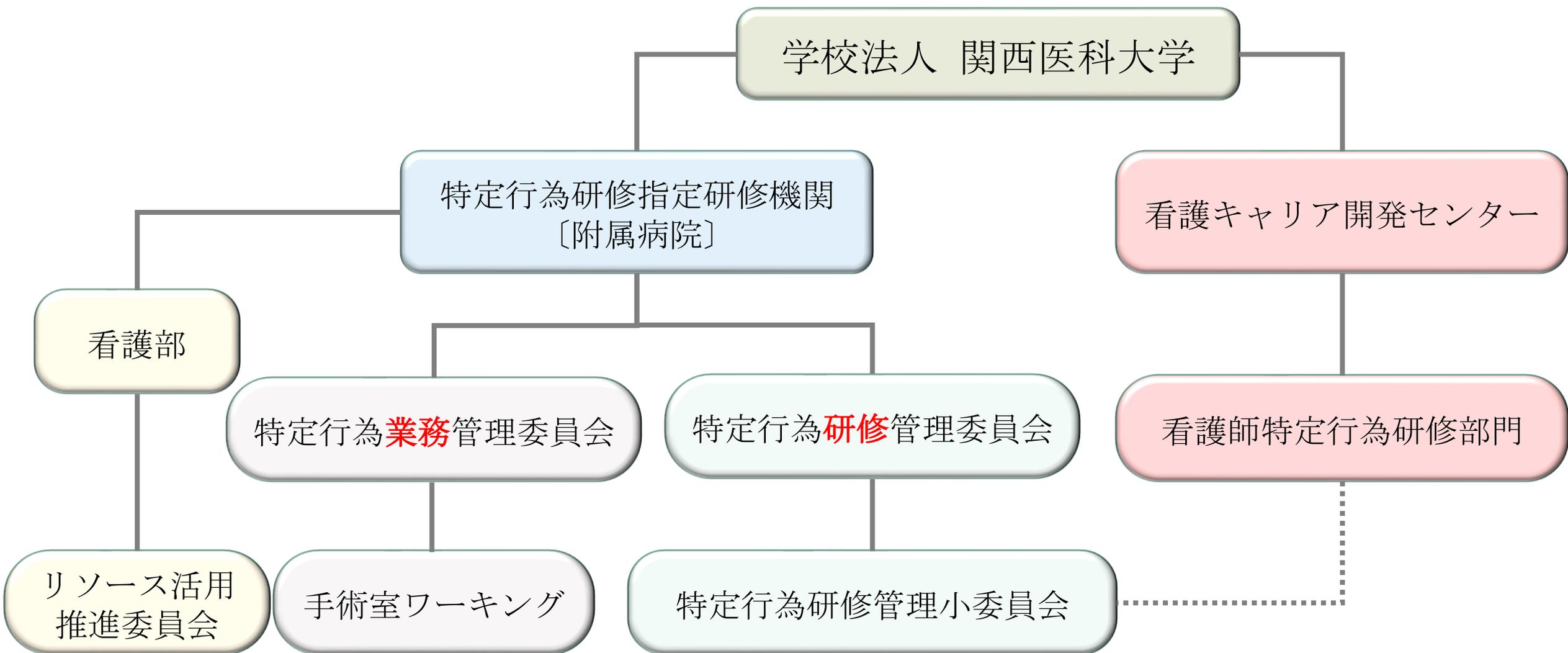
- 看護師としての実践能力向上
- 看護師の自律した患者マネジメント
- 看護部の質の向上

- 医師業務の代行
- 医師不在時のタイムリーな患者対応

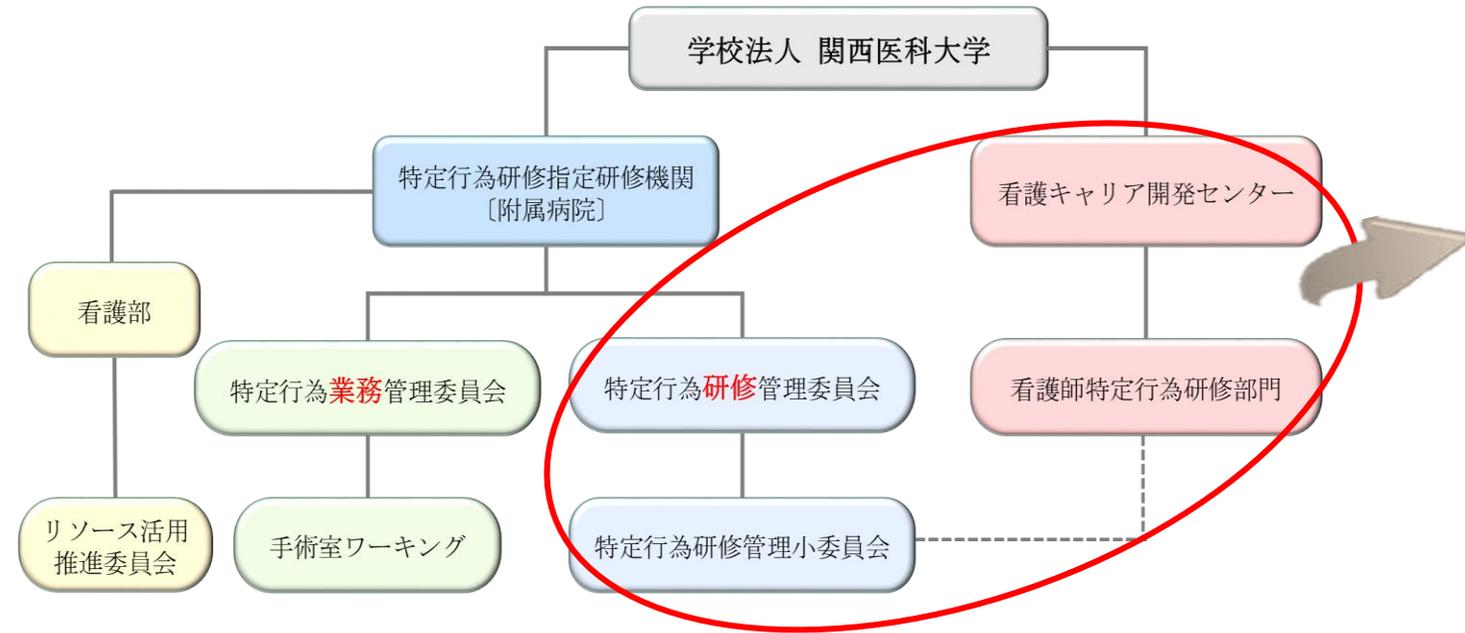
患者への利益

価値

# 組織体制



# 研修の質保証と臨床との融合



## 研修の質保証

- ◇ 看護キャリア開発センター
- ◇ 特定行為**研修管理**委員会
- ◇ 特定行為**研修管理**小委員会
- ◇ 特定行為**研修部門**

を設置

## 臨床との融合

- 特定行為研修 専従看護師長（or副師長）の配置
- 専従看護師長による診療科への説明会実施
- 演習・実習における指導医・CN/CNS・特定看護師の協力

# 特定行為研修の変遷

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
開講 コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>重症患者管理コース (6区分15行為)</li> <li>術中麻酔管理領域PG</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅基本コース (2区分3行為)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>病棟基本コース (3区分5行為)</li> <li>*オプション                             <ul style="list-style-type: none"> <li>ドレーン</li> <li>血糖管理</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2025年度 PICCC挿入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集中治療 領域PG + 関医コース (7区分13行為)</li> </ul>
修了 者数	35名	40名	40名	36名	36名

# 当院オリジナルのコース受講

特定行為区分	集中治療PG+ 関医コース (7区分13行為)	病棟基本コース (3区分5行為)	在宅基本コース (2区分3行為)	術中麻酔管理 領域PG (8行為)	*オプション ドレーン・血糖 ・(PICC)
呼吸器（気道確保に係るもの）関連	★			★	
呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	★			★	
循環器関連	★				
腹腔ドレーン管理関連					★
栄養に係るカテーテル管理 (中心静脈カテーテル管理) 関連	★	★			
栄養に係るカテーテル管理 (PICC管理) 関連					(★)
動脈血液ガス分析関連	★	★		★	
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	★	★	★	★	
血糖コントロールに係る薬剤投与関連			★		★
術後疼痛管理関連				★	
循環動態に係る薬剤投与関連	★				

受講生の選出は、

## I. 本人の主体的意思

⇒ 特定看護師として働く同僚・先輩へのあこがれ

## II. 部署管理者による推薦

⇒ 目標面接などでキャリア形成の1つとして動機付け

## III. 募集要件

⇒ 免許取得後、5年以上の実務経験を有する者

クリニカルラダーⅢ以上でⅣを目指す意志のある者

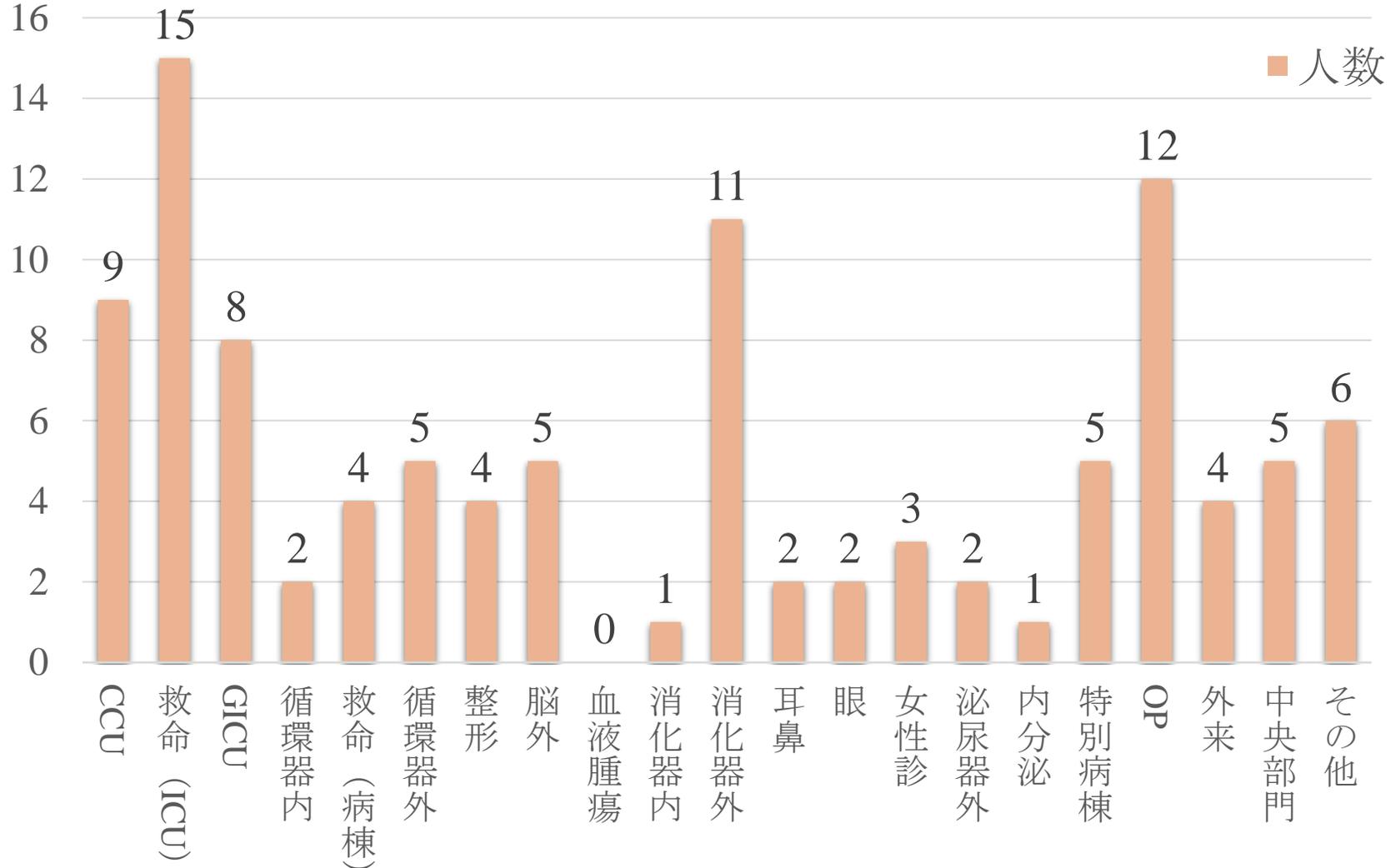
## IV. 面接審査

⇒ 特定行為研修管理委員会 委員により実施

# 部署別配置人数

## 特定看護師数 106名

	人数
他施設での修了者	2
1) 術中麻酔管理PG	13
2) 在宅基本コース	2
3) 重症患者管理コース	68
病棟基本コース	10
病棟基本+ドレーン	8
病棟基本+血糖管理	3



2024年4月1日現在

# 看護管理者への期待

## 看護管理者に期待する役割

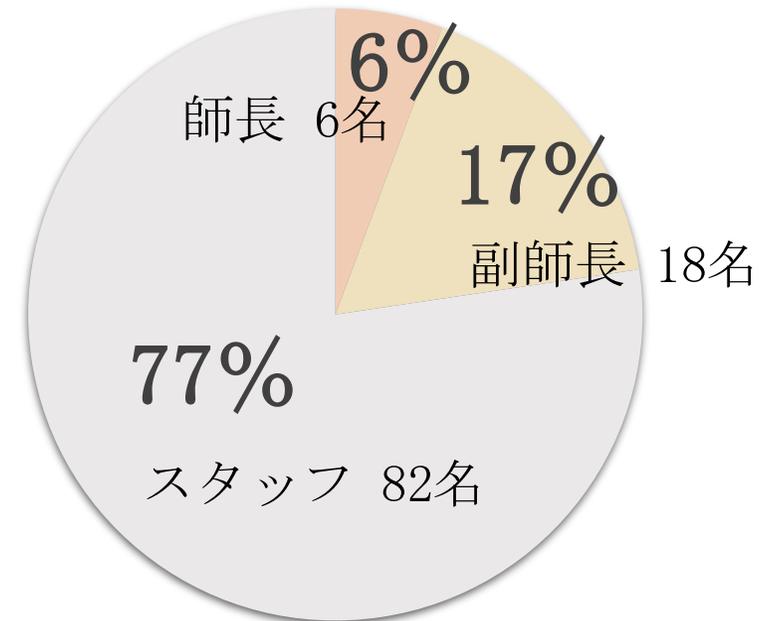
- **OJTでの育成**（特定看護師の成長を促す）
- **活躍の基盤整備**（職場環境・業務采配）
- **周囲への働きかけ**（周知・普及）
- 特定看護師らの活躍による**成果の可視化**
- **キャリア支援**（新たなキャリアへの挑戦を援助）

修了者の配置がある18病棟中**14病棟**に  
特定行為研修を修了した**師長/副師長**を配置



- ◆ モデルとなる部署運営を実践
- ◆ 他の看護管理者を牽引
- ◆ 特定看護師らをエンパワメント

職位別割合



# 院内レベルの支援体制

## 特定行為業務管理委員会

## 手術室ワーキング

### <メンバー構成>

病院長 副病院長（特定行為担当）  
医療安全管理部部長  
主要診療科代表医師  
看護部長 看護副部長 師長 副師長

### <主な検討内容>

- 手順書や医療安全に関すること
- 活動状況や支援体制に関すること
- フォローアップ研修の開催
- ニュースレターの発行 など

### 特定看護師フォローアップ研修

2023年12月15日  
関西医科大学附属病院  
特定行為業務管理委員会

安全な特定行為の実践および正確なアセスメント能力を向上することを目的に、特定看護師フォローアップ研修を企画しました。今年度は、特定看護師からのニーズが高かった内容である、『画像の基本的な読影スキルの習得』としました。勤務調整のうえご参加ください。

日時： 2024年2月3日(土) 13:30~15:15

場所： 附属病院 13階講堂

対象者： 特定看護師

特定看護師研修生（4期生）

\*参加希望者が多い場合には、特定看護師が優先となります

テーマ： 画像の基本的な読影スキルの習得

目的： 画像アセスメントの能力の向上を図る

特定行為の実践に関する画像情報を正確に捉えられる

内容： 胸部画像（レントゲン・CT）の読影ポイント

講師 循環器内科 諏訪先生

腹部画像（レントゲン・CT）の読影ポイント

講師 消化管外科 小塚先生

院内便

### 看護師特定行為ニュースレター No.8

『看護師特定行為マニュアル第3版』を改訂しました  
マニュアル確認方法  
・各病棟にマニュアル設置 \*各薬局にも配布しています ご確認ください  
・GXTopp画面 ⇒ 看護師特定行為

変更/追加点

- 特定看護師の活動範囲  
・配属部署のみの活動です  
・中央部門の特定看護師は 横断的活動を行います
- 当院における特定看護師のロールモデル

患者アウトカムの向上

医師・同僚看護師・他職種からの信頼⇒チーム医療のキープワゴン

- 医師（病棟医長・指導医）の役割
- 1) 病棟医長
  - > 特定看護師の活動に関して、医師の意見を収集し、看護管理者と共有、課題解決を行う
  - ・看護管理者と、必要時カンファレンスを行い、特定看護師の活動状況を共有する
  - 診療科に必要な特定行為 手順書改定 など
  - ・医局内への周知をはかる
- 2) 指導医
  - > 特定行為の独り立ちに向けて支援を行う
  - > 対象患者の治療方針等の共有を行い、安全に特定行為が実施できるように支援する
  - > アセスメントや、技術向上に対して教育的関わりを行う
- 医師とのカンファレンス
  - > 部署内の特定看護師のメンバーが変更（4月・部署異動）になったときには、病棟医長、看護

# 看護部レベルの支援体制

## リソース活用推進委員会

2024年度の  
取り組み

### 1. 研修後→自立に向けた支援

- 方針決定のための三者ミーティングの開催支援  
診療科医長-部署師長-特定看護師で合意形成
- 指導医による独り立ちの最終承認

### 2. 活躍の支援

- 委員による部署単位の支援 ラウンド実施  
対象：看護管理者/特定看護師/医師
- 特定看護師会の企画・運営
  - ① 特定看護師デビュー組対象の会 3回/年
  - ② 特定看護師〔部署代表〕の会 2回/年

### 3. 実践状況とインシデント・課題の把握

- 特定看護師個別/部署別/診療科別/行為別の  
実践件数を把握
- インシデント、課題の共有と対応

### 委員メンバーによる部署ラウンド

＜特定看護師＞

- ・活動の進捗状況
- ・活動において困っていること

＜医師・看護管理者＞

- ・活動基盤の構築に向けた取り組み

### デビュー組対象の会

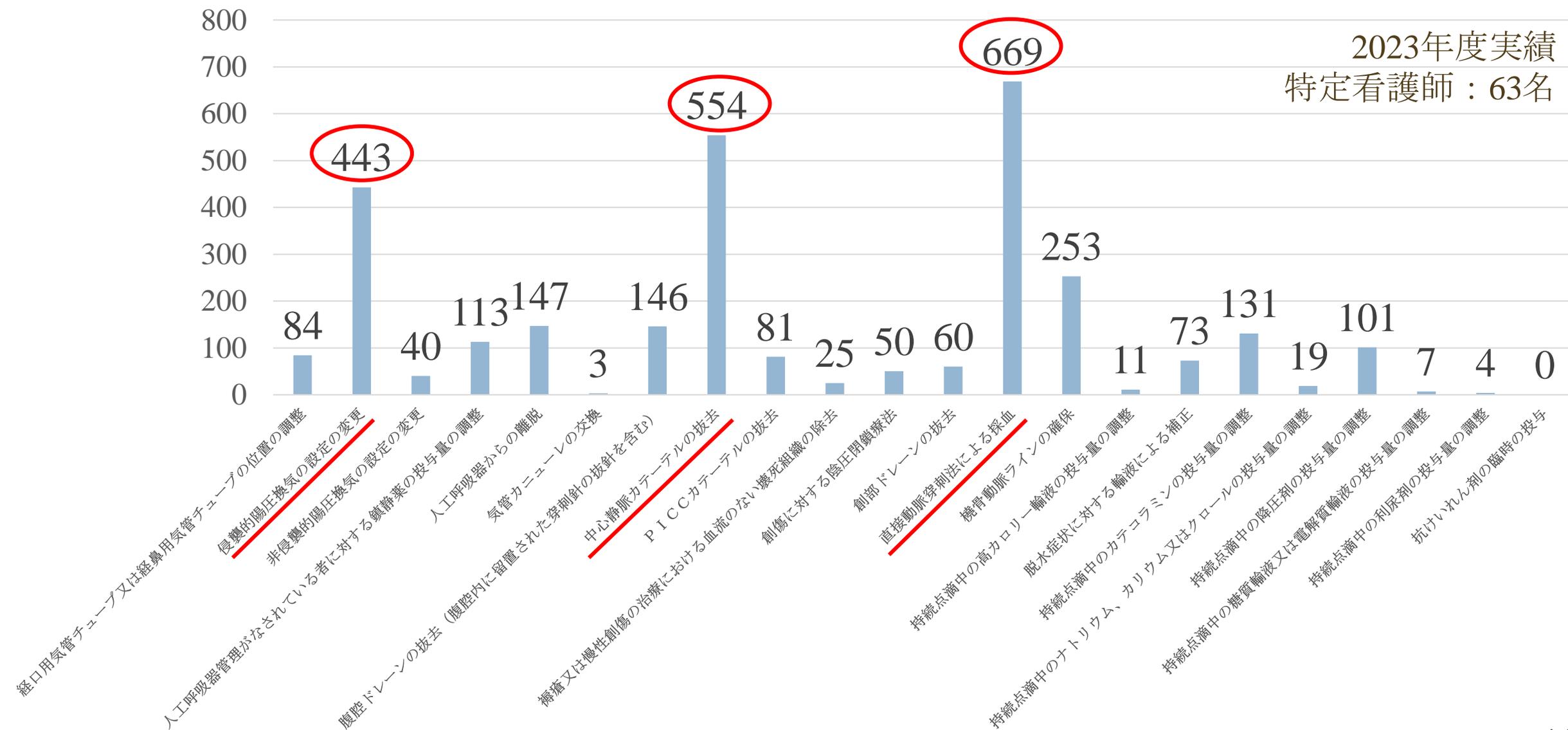
- ・特定行為を実践する上での困難や問題  
点の抽出と情報共有（GW）

### 特定看護師（部署代表）会

- ・重症患者ケア、重症化を回避する為  
にできること（GW）
- ・部署ごとの実践報告会の開催

師長会 活動基盤の構築に向けた取り組み  
についてGW

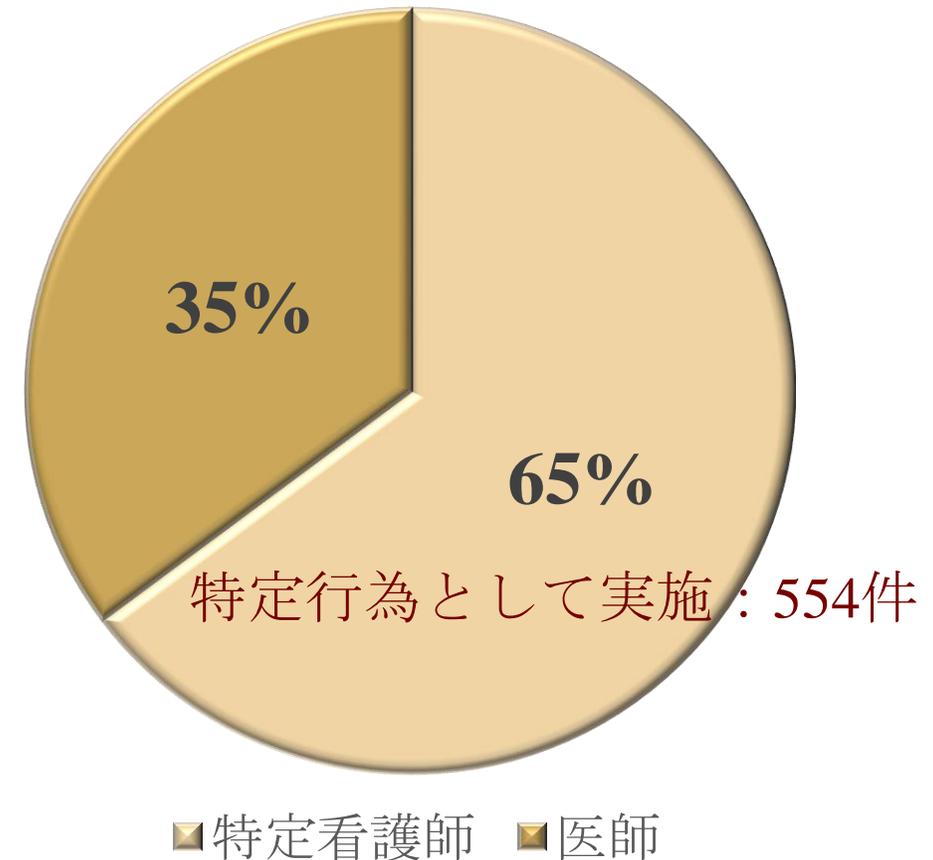
# 特定看護師の活躍の実際



# 医師のタスクシフト・シェアへの貢献

中心静脈カテーテルの  
抜去

特定看護師が実施した割合



2023年度

# 活用の実際（部署固定配置）

## 高度救命救急センター

### 気管チューブの位置調整

❖ 担当看護師が、勤務開始時にチューブの位置確認を実施。位置異常の可能性がある場合、特定看護師に相談

### 呼吸ケアカンファレンスへの参加

## 外科病棟・泌尿器外科病棟

### 部署看護師の育成（OJT教育）

❖ 重症患者のアセスメントやケアに関する苦手意識が強いスタッフへの介入

### 重症化予防チーム（院内）との連携

❖ カンファレンスに参加しチームと連携

## 管理的実践

### GICU・外科病棟・救命センター

❖ 特定看護師を全勤務配置

### 心臓血管外科病棟

❖ 固定チームナーシングの各チームに特定看護師を配置

### 泌尿器外科病棟

❖ 病棟医長と話し合い、活躍できる特定行為を決定

### 高度救命救急センター

❖ 特定看護師会を設置

# 2023年度 消化器外科病棟 特定行為実践内容

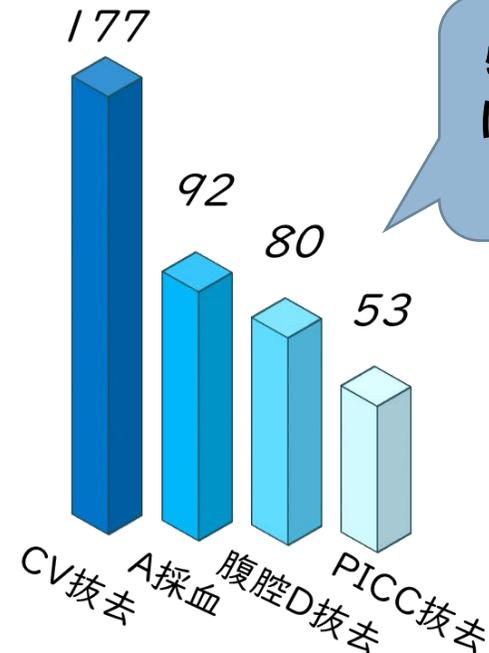
## 看護管理者の取り組み

- ❖ 特定看護師の活動を充実させていきたいというビジョンをスタッフと共通認識
- ❖ 特定看護師の活動ニーズと特定看護師への役割期待について面談を通じて共有
- ❖ 特定看護師リーダーの任命
- ❖ 全勤務配置の勤務表作成

## 特定看護師の取り組み

担当の特定看護師を決め、重症化リスクが高い患者を対象に毎勤務平日のみカンファレンスを実施

- ❖ 特定看護師の声  
特定看護師同士の引継ぎが多くなり、患者の把握ができた
- ❖ 病棟看護師の声  
特定看護師と一緒にケアの方向性を考えてくれるため、心強く困った時に相談しやすい



特定看護師としての活動はCV抜去やドレーン抜去だけ？

令和5年4月～令和6年1月 実績

# 手術室ワーキングでの検討事項

〈メンバー構成〉 病院長 麻酔科部長 看護副部長 手術室師長

- ・ 手順書の作成
- ・ 実習の体制整備
- ・ 運用フローの検討
- ・ 配置人数
- ・ 勤務時間



- ・ 育成方法
- ・ 能力評価
- ・ 活動の可視化
- ・ 効果の検証
- ・ 今後の育成計画



- ・ 効果的な活用方法の検討
- 
- ・ 役割拡大

〈特定看護師 育成数〉

2020年度 8名

2021年度 8名

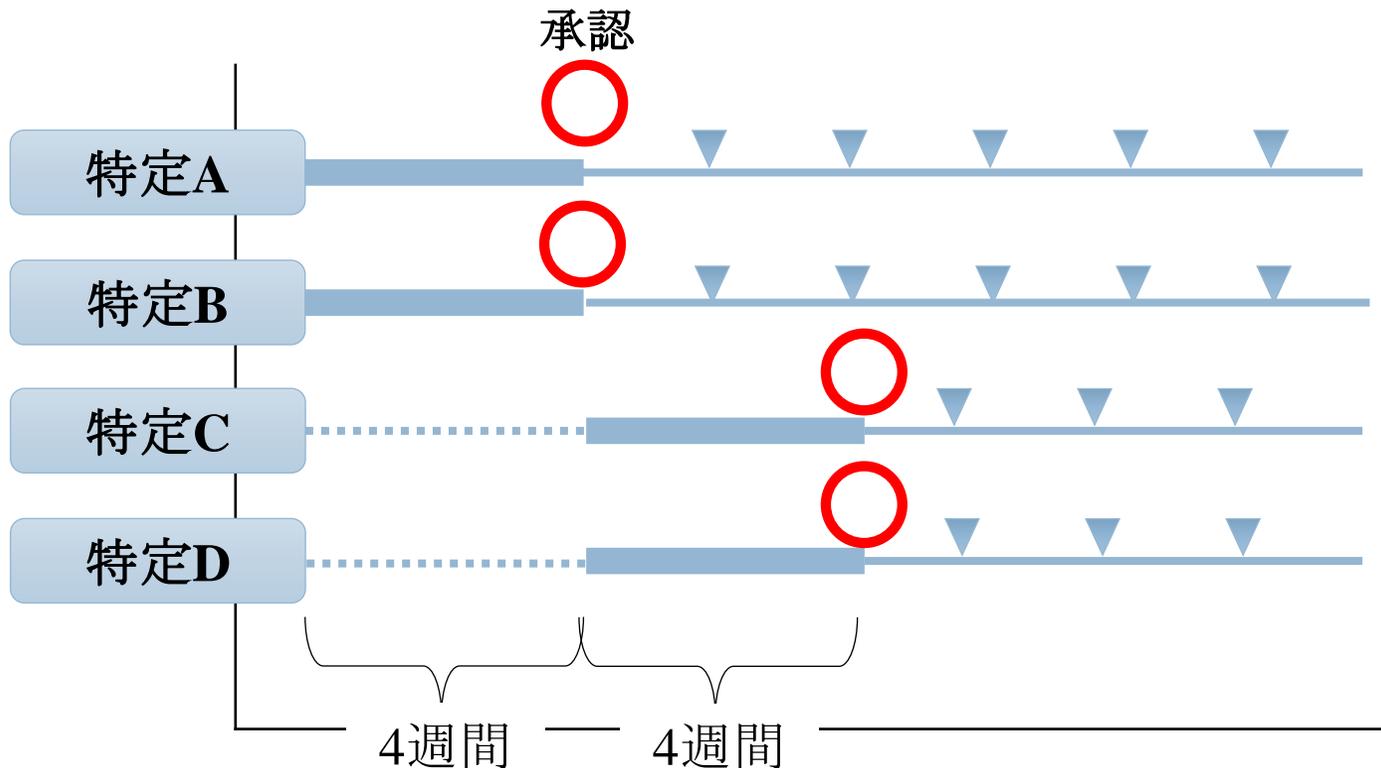
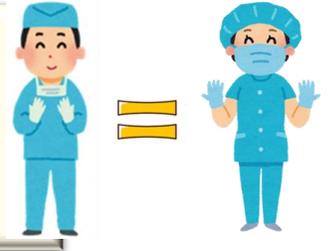
2022年度 1名

2023年度 0名

# 手術室での自立に向けた支援

## OJTによる集中的強化型トレーニング

指導医とペアで、4週間連続して特定行為を実践し、評価表を用いて自立の承認を得る



### 評価基準

- A: 手技ができた/指示通りの管理ができた
- B: 手技ができなかった/指示通りの管理ができなかった
- C: 特定行為にあたる業務がなかった

承認後は、特定専従として勤務する日もあれば、外回り担当日に麻酔科医師と協力・連携し、適宜学んだ知識を活用している

# 手術室での活躍の実際

研修後⇒自立に向けた支援

OJTによる集中的なトレーニング

・指導医とともに4週間連続して特定行為を実践、評価表を用いて独り立ちの承認を得る

対象患者

術前診察時にASAリスクⅠ・Ⅱの患者

【除外条件】

- ・小児（16歳未満）
- ・心臓外科・産科・呼吸器外科手術
- ・腹臥位での手術
- ・リスクⅡでも特殊な麻酔管理が必要な患者

特定看護師の割り付け

- ・術前外来で麻酔科医が実施可能が判断
- ・手術予定を決定する際、  
麻酔科医と副師長で担当する特定看護師を決定

麻酔・手術中の管理

侵襲的陽圧管理の設定・変更

橈骨動脈ラインの確保

持続点滴中の糖質輸液・電解質輸液の調整

硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与および投与量の調節

人工呼吸器からの離脱

ペア



指導医  
(専門医)

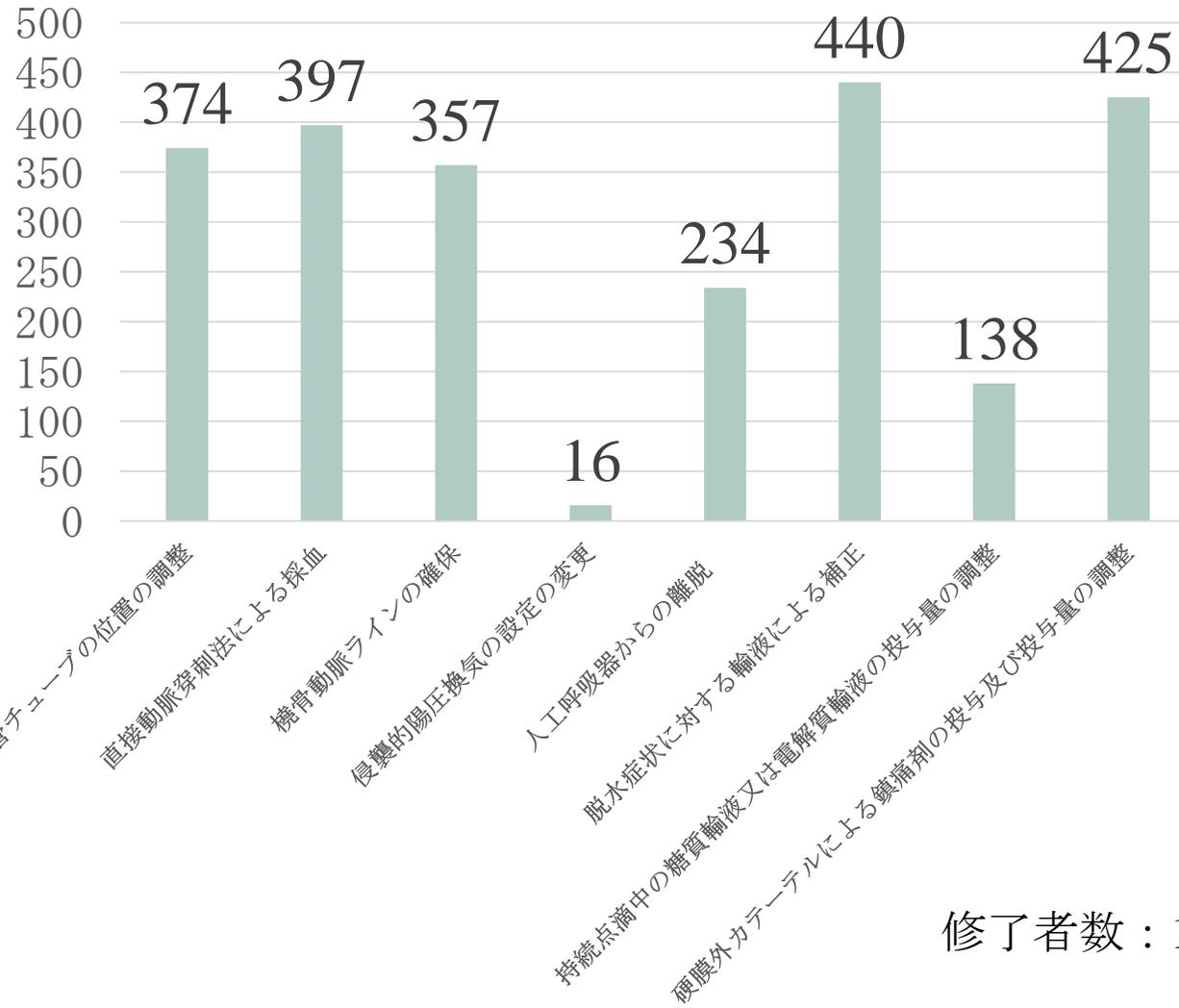
特定看護師



専攻医

相談・フォロー

# 手術室での特定看護師の活躍



特定看護師の手術対応件数  
372件

〔対応した主な手術〕

- ・乳房部分切除術
- ・耳下腺摘出術
- ・歯根のう胞摘出術
- ・腹腔鏡下子宮附属器摘出術
- ・胃切除術
- ・腹腔鏡下肝切除術 など

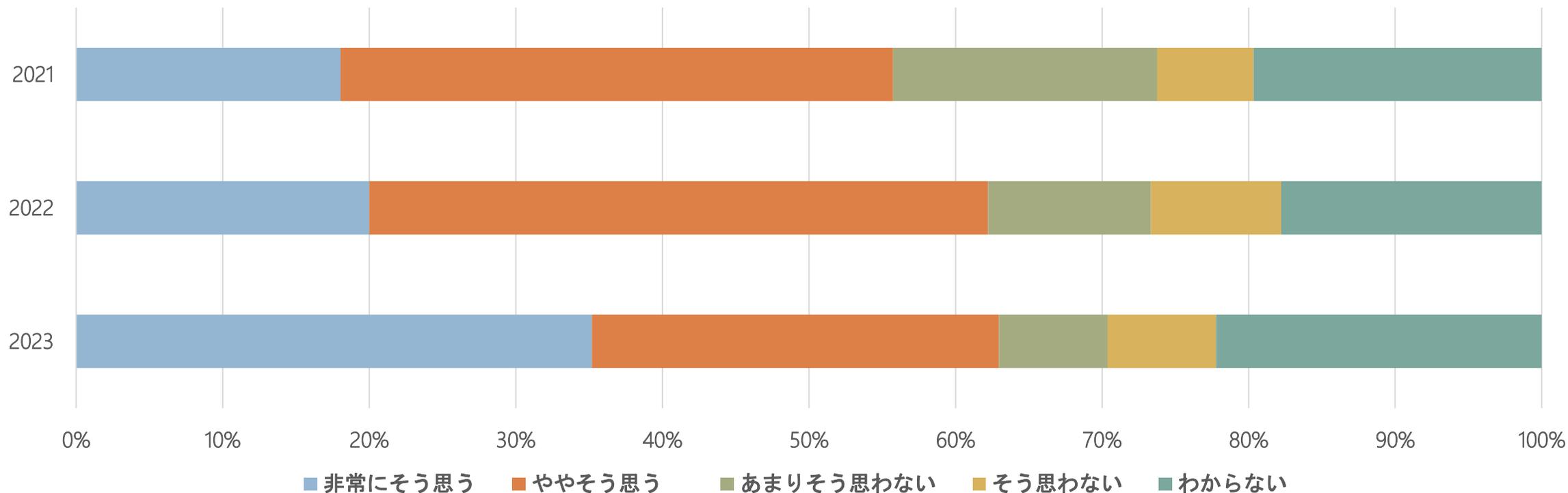
修了者数：17名

# 特定看護師の活躍に関するアンケート調査

医師へのアンケート

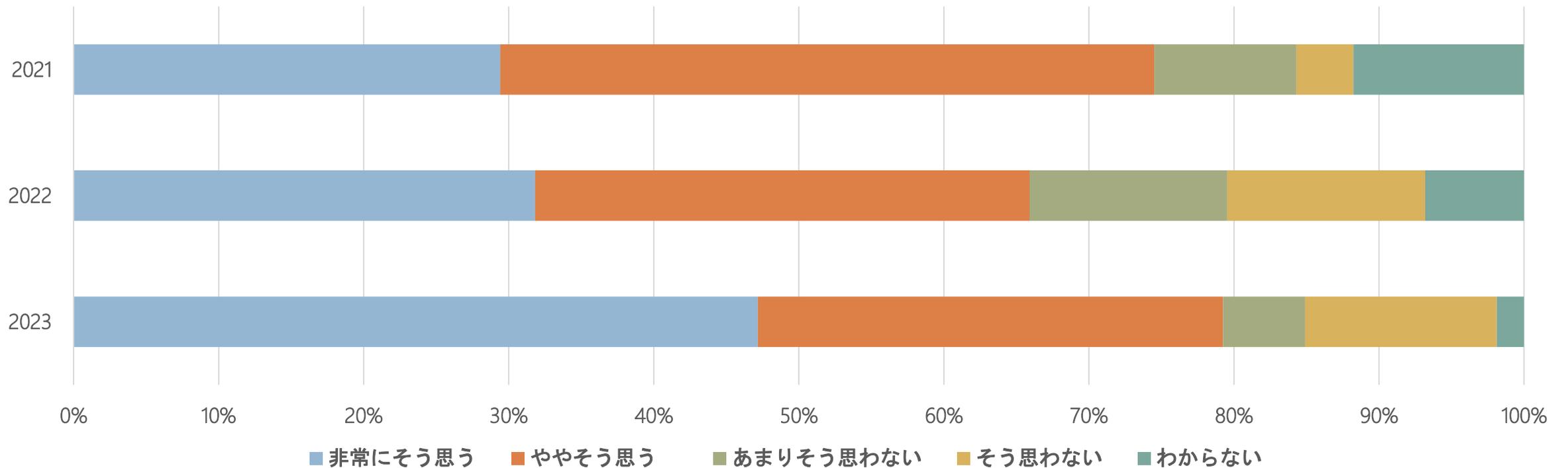
24診療科 医師57名（指導医70.2%）

治療やケアあるいは術中麻酔管理の計画について、特定看護師と話し合うようになった。



# 特定看護師の活躍に関するアンケート調査

特定看護師が特定行為をすることで、医師の業務が軽減しましたか。



## まとめ

- 病院長をはじめとする組織管理者の強いリーダーシップのもと、組織にとって必要な特定行為を選定し研修を実施することは、特定看護師の活用において重要である
- 複数の部署に複数の特定行為研修修了者が配属されていることは、医師が特定看護師の役割を理解し役割期待とともに協働する機会となっている
- 複数の部署に複数の特定行為研修修了者が配属されていることから、共に働く看護師の身近な憧れの存在となり特定行為研修の受講意欲を高める機会となっている
- 特定行為研修を修了した師長・副師長の部署配置は、スタッフのキャリア支援・活躍の基盤づくりに効果がある
- 配属部署での特定行為の実践は、役割拡大を目指したタスク・シフト/シェアに繋がっている